

1 構造改革特別区認定と認定に伴う地域限定特例通訳案内士の養成について

市長

佐渡市では構造改革特別区域法による規制の特例措置によって地域限定特別通訳案内士の養成を行うため、内閣府に対して「佐渡市地域限定特例通訳案内士養成特区」の計画申請を行いました。その結果、6月17日付けで認定されました。

今後、外国人旅行者に対して、佐渡の魅力をよりの確に伝えることのできる英語ガイドの育成を目的に「佐渡市地域限定通訳案内士養成等事業」を進めます。

現在、我が国を訪れる外国人旅行者に対して有償で通訳ガイドを行うには、国家資格である通訳案内士の資格が必要です。今回の特区認定によって、佐渡市内だけで活動する場合に限り、通訳案内士と同等の業務が行える「佐渡市地域限定特例通訳案内士」の養成と認定を佐渡市が行えることとなります。

佐渡金銀山の世界文化遺産登録を見据え、増加が見込まれる外国人旅行者、特に個人旅行を中心とする欧米からの観光客に対応するため、英語通訳ガイドの養成は緊急の課題です。しかし、当市の英語通訳ガイドは、現在、数名が活動されているのみとなっております。

このため、地域限定特例通訳案内士を養成することにより、外国人観光客の満足度の向上や滞在期間の延長を図り、リピーター率や認知度の向上につなげ、外国人観光客数のさらなる増加を目指したいと思います。

佐渡市地域限定特例通訳案内士の養成は、一定の語学力を有する方から、自然や伝統文化を始めとする佐渡の知識を習得する研修を受けていただいた後、認定を行う計画です。この9月から研修受講者の募集を開始し、続けて研修を実施いたします。来年3月には地域限定通訳案内士として認定する予定です。

詳細は後日またお知らせしますので、多数の皆さまの受講をお願いいたします。

2 熊本地震義援金の受付状況と受付期間延長について

4月に発生しました熊本地震で被災された皆さまを支援するため、佐渡市では日本赤十字社と連携し、本庁、各支所・行政サービスセンターで義援金を受け付けてまいりました。

6月30日までに受け付けた義援金の金額は112万8,396円となりましたのでお知らせいたします。

義援金を頂いた市民の皆さまや市内事業所などの皆さまのご協力に感謝するとともに、お預かりした義援金は速やかに被災地へ届けられるよう手配いたします。

また、日本赤十字社の義援金受け付けは当初6月30日までとされていましたが、全国からの義援金の申し出が引き続き寄せられていることから、受付期間を延長することになりました。

このため、佐渡市でも義援金の受け付けを平成29年3月31日(金)まで延長しますので

お知らせいたします。

引き続き、被災地の皆さまへのあたたかいご支援をお願いいたします。

3 「宝くじスポーツフェア ドリームベースボール」の開催について

「宝くじスポーツフェア ドリームベースボール」を7月24日（日曜日）にサン・スポーツランド畑野 野球場をメイン会場として開催いたします。

ドリームチームは、金田 正一 さん、谷沢 健一 さん、藤田 平 さん、村田 兆治 さん、桑田 真澄 さんといった元プロ野球選手24名で構成されています。佐渡での開催は4年ぶり2度目となります。

7月24日は、

- ・午前9時30分～ ドリームチームによる「少年少女ふれあい野球教室」
- ・正午～ サイン入りバットなどのグッズが当たる「ドリーム抽選会」
- ・午後1時～ 「ホームラン競争」などのアトラクション
- ・午後1時30分～ ドリームチームと一般社会人による佐渡市選抜チームとの親善試合が行われる予定です。

また、午前10時30分からは、「トキのむら元気館」で、『私の野球人生』と題して金田正一さんによる「ふれあい講演会」を行います。

いずれも入場は無料ですが、ドリーム抽選会の抽選券を兼ねた入場整理券が必要となります。入場整理券は、サンテラ佐渡スーパーアリーナ、教育委員会社会教育課、各地区公民館、アミューズメント佐渡で配布しております。

なお、サン・スポーツランド畑野野球場の駐車場は、台数に限りがあります。ご来場の際は、シャトルバスを運行しますので、畑野行政サービスセンター駐車場をご利用いただきたいと思います。

佐渡ではなかなか体験できない元プロ野球選手との交流やプロの技術を体験できるよい機会ですので、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。い

4 「2016 佐渡オープンウォータースイミング」及び「ビーチイベント」の開催について

今年で4回目となる「2016 佐渡オープンウォータースイミング」を8月7日（日曜日）、佐和田海水浴場を会場に開催いたします。

オープンウォータースイミングは、海や湖など自然の中で行われる長距離の水泳競技ですが、佐渡では5千メートル、2千メートル、1千メートルの3種目が競われ、今大会には479名の方がエントリーしています。大会には毎年ゲストをお招きしていますが、今回は、数々のオープンウォータースイミングで優勝経験があり、イタリアのナポリで行われた世界選手権の日本代表でもあります、東 翔さんをお迎えします。東さんには、ゲストスイマーとして最長の5千メートルに出場していただきます。

また、大会前日の6日（土曜日）には、真野長石海岸を会場に、海岸を活用したビーチイベントを行います。

ゲストの東 翔さんからは、海での泳ぎ方・海で泳ぐ際の注意点を学ぶ「海の水泳教室」を行っていただきます。

それ以外にも、一般の方を対象とした競技種目として「ビーチサッカー」「ビーチバレーボール」「ビーチテニス」を行うほか、イベント種目として小学生を対象とした「ビーチ運動会」や、幅広い年齢層の皆さんから楽しんで頂ける「ビーチフラッグス」「ビーチサンダル飛ばし」「水上バイク体験」「バナナボート体験」「海の安全教室」を開催いたします。

一部の競技では7月29日までに申し込みが必要となりますので、ご確認のうえ佐渡市スポーツ協会の方へお申し込みください。

多くの皆さまの参加をお待ちしております。

質疑応答

(1) 構造改革特別区認定と認定に伴う地域限定特例通訳案内士の養成について

記者

これは佐渡市以外でも認定されているところはありますか。

観光振興課長

10地区ほど認定を受けております。

記者

10地区というのは県内ですか。

観光振興課長

いえ。全部県外です。

総合政策監

長野、高山ですとか金沢ですとか（が認定を受けています。）

記者

新潟では初めてですか。

観光振興課長

新潟では（初めてです。）

記者

これは特区ということで国家資格と変わらない資格になるってこといいんですか。

市長

地域の中で活動する場合に限りです。地域限定の特区です。

記者

受ける人にとってはこれを受ける何かメリットみたいなものってあるんですか。

総合政策監

通常、先ほど市長もご説明ありましたけれども、通訳案内士の資格を取るのは、日本の歴

史だとか地理、すごく高度な試験を受けるかわりにお金を取ってボランティアを業として行うことができるんですけども、今回の規制緩和によって佐渡を限定として有償ガイドボランティアを行うためには佐渡市が行う一定の研修を受けていただいて、認定をされた場合はそういった有償でボランティアを業として行うことができるということです。

記者

佐渡市限定ということか。

総合政策監

もちろんです。そうしないと通訳案内士の制度自体がおかしくなってしまいます。そこは適正な規制の緩和ということで認めて頂いています。

記者

だいたい何人くらいの潜在人口がいるんですか。

観光振興課長

20名の認定を目指しております。

記者

今年でですか。

観光振興課長

はい。

記者

別に島外からの募集で島外から来られてもいいんですよね。

観光振興課長

はい。島外から来られても実際活動できるのは佐渡市内ということになります。

記者

平成27年、構造改革特別区域なんか法、それに通訳案内士というのがあって、手を上げて認められたということですね。

観光振興課長

そうです。

記者

それは内閣府ですか。

観光振興課長

そうです。はい。

記者

最初に承認されたのはどこでしたっけ。

総合政策監

最初は確か長野だったかと。それは後で調べてお渡しします。確か長野です。

記者

山梨っていう話しも…

(認定は) 県と市町村といろいろですか。県というのものもあるんですか。

観光振興課長

両方あります。

記者

長野と山梨は県ですか。

総合政策監

調べて後でお渡しします。

(2) 熊本地震義援金の受付状況と受付期間延長について

なし

(3) 「宝くじスポーツフェア ドリームベースボール」の開催について

なし

(4) 「2016 佐渡オープンウォータースイミング」及び「ビーチイベント」の開催について

なし

(5) 案件以外

記者

参議院選が終わりましたけど、その感想を。県内では自民党が敗れて野党統一候補が当選したわけですが、これはどのように感想をお持ちですか。

市長

新潟選挙区については、当初から大激戦とずっと予想されていまして、私個人的にもまったくどっちが勝つ・負けるが読めない状況で見えておりました。新潟ではそうなりましたが、全国の与党対野党統一候補の中でいうとほぼ倍の差がついていますから、結果トータルでいえば自民党が勝ちきったという印象です。

記者

その中で、野党統一候補の森さんが当選したということで、佐渡市に影響とかそういったどうですか。

市長

それについては今のところ全く見えませんし、森さん含めて今後の当選された議員の方々、比例区の部分も含めましてそこでの議員の皆さんの活動状況を勘案しながらこちらとしては改めて国会に登庁される参議院議員の皆さんも含めて佐渡の今後に向けた協力はお願いしていくっていうのは同じことですから、それについては佐渡としてのスタンスが変わるわけで

もなんでもないと思います。

記者

関連してなんですけど、今回の選挙、参院選で各市長が応援に行ったりとかもしてましたが、三浦市長はどなたかに応援とかは

市長

いや、今回は一切（していません。）

記者

まったく動いてないですか。

市長

はい。

記者

金銀山ミュージアムの構想がありますけど、市長は行政のスリム化、無駄使いをやめようという中で、あれは無駄だとは思いませんか。

市長

ガイドンス施設のことですか。

記者

ええ。

市長

無駄といたしますと。

記者

市民からは既存の施設を使うべきだっていう声も上がってるんですけど、それについては

市長

既存の施設、例えば。

記者

例えば博物館とか佐州館、観光施設とか。

市長

それにつきましては、文化庁等とのこれまでのヒアリングや向こうサイドからの意見等々で、一箇所ですべての金銀山に関するものを、知識を入手できる環境を一箇所で完結して整えるべきという話がもともとできていまして、その上で相川地区中心にどういう形で展開するかということで、行政側はこれまで動いてきたわけでして、どうしても既存の博物館等の広さ等含めると、全部一体的にすべての世界遺産関連の資料展示等を行うことが難しいということから、もともとは既存の博物館なり既存の博物館等のスペース的にはちょっと難しいものがあるということで、代替りの施設をどうするかということを考えていた流れの中で進んでいます。

記者

民間がやってるゴールデン佐渡の施設とかの邪魔というか同じようなことをやるんじゃないかという話も出ているんですがどうですか。

市長

そこは完全に展示物及び説明できる内容のものをちゃんとすみ分けができる形ですべての西三川（砂金山）から鶴子（銀山）から含めたトータルの佐渡の世界遺産に絡んでいるトータルを一気にまとめて紹介できる施設ということですので、そのすみ分けはきっちりこれまでも詰めてやりとりをしていると報告を受けております。

記者

この施設がないと世界遺産の推薦を受けられないというわけではないですよ。

市長

こちらが報告を受けている中でいうと、その施設がないとなかなか評価の方の部分で（国内推薦が）厳しいものも出てくるというふうには聞いております。

記者

これはもう明らかに文化庁が言ってるんですけど、今年はまだ長崎のキリストでほぼやるってことで内々決まってる中野さんなんか文化庁ちゃんとはっきり言えばいいのという状況の中で、まだそういう状況についてはどう思いますか。

あんまりあわてる必要もないんじゃないでしょうか。

市長

そこについては、こちらとして一部の方がどういう発言をしようとするかこちらとしてはあくまでも前年同様に正式な国内推薦の結果を待つしかないもので、それを踏まえて、その結果を踏まえてまた世界遺産登録へ向けての運動がこれで終わるわけではありませんので。

記者

文化庁から別に公式にはもう決まってるのかそういう類のことは

市長

一切ありません。

記者

大野にトイレありますよね。公衆用トイレ。あそこになんて書いてありますか。知らないでしょ。

市長

知らないです。

記者

本来みんなそこ回るとかなきゃならない。「利用のマナー悪し。使用禁止にします。新穂行政サービスセンター」って。こんな公衆トイレありますか。でそこにはね、ワイヤーで太いロープで戸を開けられないようにしてあるんですよ。身体が不自由な人たちが使いたくても使えないし、しかも県道に面しているところなんです。だからこういったのは市長がまわれなくてもやはり職員に指示をするかそういったことをしないと、だんだん市長困ることになっていくんじゃないかなというそういう市民の声がありますがいかがですか。

市長

ちょっとすいません。公衆トイレの件は今初耳なものですから、これは申し訳ないです。

報告がちゃんと上がってこない部分は直さなければならないと思います。それは早急に調べてどういういきさつだったのかも含めて対応しなきゃいけないというふうには思います。すぐ善処したいと思います。

記者

世界遺産の国内推薦ていうのはいつ頃を見えますか。

市長

現状の見通しでは、今月の7月の月末、もしかしたら8月頭にずれこむ可能性があるというのを聞いています。

記者

先ほど読売さん言いましたけど、市長として間近に迫ってきているわけですが、今期待と何かどんな感想を持っていますか。

市長

現状で言いますと6月の下旬に世界遺産関係のこちらの担当者、国の方へいきまして、最終的な細かいヒアリング等のやりとりを終えました。国サイドと具体的な直接的なやりとりはあれがほぼ最後だというふうに認識しております。あとは国内推薦の最終発表を待つしかない状況ではありますが、その間も事あるごとに人が集まったりするイベントの中では事あるごとにそういう部分は盛り上げを含めてやっていかなきゃならない。ただ実態としてはもう発表を待つしかない時期にきているということでありまして、先ほどのお話じゃないですけど、感触としては長崎（キリスト教会群）さんとの一騎打ちという部分までは来ているというふうには思っています。

記者

4分の1で万が一推薦を受けた場合ですけれども、市民に対するとか市民を巻き込んだイベントみたいなもの、今佐渡市はどんなことを計画していますか。

市長

基本的には、まず当日については昨年準備していたことと同じ形のもろもろの垂れ幕等々含めてその準備は同様に今しているところという流れですが、その後の実際のイベント等については、(推薦)決定と同時にすぐさま具体的なものをお知らせできればというふうに思っております。

記者

予定していることは、決まっているようなことは言ってもいいんじゃないですか。万が一推薦を受けた場合のために。

市長

基本的に推薦を受けた当日については、昨年と同様にお祝いの垂れ幕等々含めたいわゆるセレモニーは(やります。)突飛なものは現状はないです。いわゆるオーソドックスな祝賀セレモニーという感じでございます。

記者

あとはもう民間サイドに任せると・・・。

市長

それは実際に世界遺産にする会の皆さん等々含めて全部一緒になって今後の部分については展開を考えていくということになります。

記者

それでは積極性がないんじゃないですか。もう半分諦めてるなって感じるんですけど。

市長

いえ、そんなことはないです。

記者

もう当選したら推薦を受けたらこういうことやりますよぐらいのことを考えてますくらいのことを言えないと。

市長

ある程度の部分は当然考えておりますが、単純に前もってこれもやりますあれもやりますと言ってもまだ結果が出ていない中で、そこについては現状で早々華々しく打ち上げるものでもないかなというふうに思っています。

記者

これまでの世界遺産になっているところはですね、事前に地元はこれだけ盛り上がってこんな運動やってますというのをこのタイミングに合わせて売っているんですよ、メディアを通じてばんばん出してるんです。佐渡ないんですよ今のところ。だからこれはやっぱり今日にでも佐渡観光協会いろいろ入れて話し合っってやっていいんじゃないですか。絶対それは損はないですからね。いろんなところで役立てると思うものですから。その辺りさっきの質問のようにもうちょっと勢いを出してもいいんじゃないかなと思います。

市長

勢いが足りないというご指摘についてはもう1回話し合った上で極力考えてみたいとは思っています。こちらなりに精一杯やってるつもりなので。

記者

今日は課長も来ていないので、なんか諦めているような感じがするんですが。

市長

そんなことはないです。

記者

ついでですけど、前から言ってるんですけど佐渡に関して世界遺産登録に向けた重要な本質部分の議論についてはほとんど非公開でずっときてるんですけど、もうちょっと公開したり文化庁の審議会も当日は非公開であっても議事録をちゃんと作ってやってるんですよ。特に佐渡なんか2年くらい前ですか、突然新穂を外したり、そういう過程が全然見えてこない。だから非常に閉鎖的な世界遺産になっちゃうと心配している人がいること、その辺はどう思いますか。

市長

そうやって全部シークレットにしているということは市としては一切なくてですね。昨年
の世界遺産の国内推薦を受けられずにそれを踏まえて旧案4項目の改善テーマも出された部
分を修正したり、今年の春改めてそれを提出したものとかいうのも含めてこういう改善、こ
ういうことをやって地元の盛り上げもこういうことやってますとそのタイミングでは表に公
表しているつもりです。

記者

議論の過程についてはまったく非公開ですよ。つまりいろんな議論がある中で、そこにど
ういう議論があったのかまったく公開されてないですよ。普通は文化庁の委員会ですら当日
は非公開でもちゃんと議事録を後々公開している。もうちょっと具体的に生々しく見えてく
るが、ここでは何も見えてこない。ここちょっとお粗末、文化庁はそういった傾向がある、
特に県なんかそうですよ。やっぱりちょっとおかしいかなど。

市長

最終的な出し直しを含めたのが3月に出した部分のところで、そこがどこまで公開されて
いるのかどうか、もう一回課長に確認します。

記者

例えば委員会とか専門委員会とかやってるわけですから、その過程はある程度はどういう
議論が出てどういう意見が出されたかくらいはある程度公開するべきだと思います。

市長

はい、わかりました。そこはちょっともう一回対応させていただきます。

記者

県市長会の知事の問題なんですけど、7月の3日に臨時総会があったそうなんですけど、三
浦市長も出席されましたか。

市長

はい、しました。

記者

今回市長会と知事を見ていると対立しているような感じなんですけど、その状況三浦市長
自体どう受け止めてらっしゃいますか。

市長

それ3日当日、新潟日報さんに取材を受けて答えているんですが。

記者

そうなんですか。何て答えられたんですか。

市長

答えは一緒で、あくまでも私自身の考えとして市長会として知事とけんかしている云々で
はなくて知事選への推薦依頼が後援会からきた、それに対して市長会として検討するための
質問書を投げた、それに対するすべて答えられる(答え)られないは別として、質問書とし
て提出しているので、どんな形であってもお答えをもらった上で実際のやりとりに入るのが
流れではないかと、この間の7月3日はまとまって、昨日会長さん、副会長さんの意見も踏

まえて泉田知事のところへ行ったという認識です。

記者

新潟と佐渡を結ぶ飛行機、なかなかずっと前市長の時から見えないですよ。最初に決まった会社が途中で事故を起こして国からなかなかOKが出ないんだ、までは取材で聞いたんですが、どういう見通しになるんでしょうか。結構待ってますよ。

市長

島外の民間の航空会社との折衝があって取り止めになってということではありません。現状もまだその会社との折衝を具体的に更にこれから段階的に詰めて実現に結び付けようということでは佐渡市も新潟県も同じ考えで進行中という段階です。

記者

それは補助金も含めた対応なんですかね。

市長

航空会社をこちらで定期路線をやってもらうための当然資料的な部分でございますし、どういう機種を使うのか諸々話になっているはずですよ。

記者

大体年度内には実現しそうなんですか。それとも選挙が終わらないと駄目なんですか。知事選が終わらないと。

市長

この件は知事選とは直接左右されると私は別問題とは思いますが、年度内に具体的に何年度からどうこうできるというところまでちょっと現状では見えてない部分はあります。ただこちらとすれば佐渡－新潟、一年度でも早く決着したいと思っております。早く決着するよう努力したいと思います。

記者

これだけ引っ張っているというのは何かネックになっている部分があるんでしょうか。会社にとってネックになっている部分があるんでしょうか。

市長

先方が運行している路線での事故トラブルも折衝が遅れている原因の一つにはなっているとの報告は受けております。

記者

県は動いていないと思うんですけど。

市長

そこは県も動いてくれているのは間違いありません。

記者

であれば、こんな長期化するはずないですよ。大体、沖縄に次いで大きな離島で空路がないなんて、いつまでこんなこと続けるんですか。

市長

現状の佐渡の空港の状況を考えたら既存の空港の中で、まずは定期航路を再開するという

のが現実的にもう一回進めなきゃいけない部分だとは思っております。

記者

今の滑走路をいかしたギリギリ乗り入れられる機体での空路再開というのは、島民は待ちきれない状況ですよ

市長

それも重々承知しています。そこに向けて努力を続けるしかない、その辺で件にもお願いしている。

記者

テストフライトまで持ってこられれば流れは変わると思うんですね、そうしないと本当にそうなっているのかと思いますよね

市長

テストフライトという言葉が出るところまではっていない

記者

これだけかかっているということは、その航空会社はやる気ないんですよ

市長

そうではないと思います

記者

じゃあなんで進まないんですか

市長

事故トラブルが元で、途中でペンディング（保留）になりかけたのは報告を受けているが、話しが潰えているわけではなく協議は続いているのは事実です。

記者

それだけ長く、何を協議する必要があるのかわからない。

市長

基本的に県営空港なので、最終的に県主導の中で全ての条件が整うのが前提になります。